

アイデア提案書

提案番号	No.18-3		
提出年月日	平成30年 8月14日	受付年月日	平成30年8月14日
所属		職名・氏名	
提案件名	政策立案サポートチームの創設		
提案の要件	<input type="checkbox"/> 市民サービスの向上に役立つもの <input checked="" type="checkbox"/> 事務能率が向上するもの <input type="checkbox"/> 経費の節減・収入の増加に資するもの <input checked="" type="checkbox"/> 行政事務運営の革新となるもの <input checked="" type="checkbox"/> 本市のイメージアップに係るもの <input type="checkbox"/> その他公益上有効であるもの		
関係部署	各部 等		
現状及び問題点	<p>(実施の必要性について具体的に)</p> <p>新たな政策立案や課題解決については、政策監を中心とした政策形成のかたちをとっているが、実質的な立案が行われていないと感じる。</p> <p>また政策形成が必要な案件があっても、しっかりしたエヴィデンスや的確な方法による立案ができていないという面もある。</p> <p>とくに昨今の「まちづくり」というテーマの政策は、ひとつの部署単位で政策形成できないことが多く、チームでの対応が有効であると思う。</p>		
提案の内容	<p>(実施の方法について具体的に)</p> <p>① 各部単位に、政策監をサポートする、政策立案サポートチームを創設する。</p> <p>② 部単位で、主査級以上の職員による、エヴィデンスに基づいた政策形成をサポートするチームとする。</p> <p>③ 部をまたいだ案件については、各部のサポートチームから選抜したメンバーによるプロジェクトチームをつくる。</p> <p>④ このチームは、あくまで政策立案のチームで、政策実行チームとは別のものとする。</p> <p>⑤ 分析と方法検討については、データによる備前市の現状から、政策実行のメリットやデメリットを端的に判断し、案を数案出して、政策監等へのプレゼンテーションを行う。(最終的な判断などは、政治的判断も含め、政策監や幹部で行う。)</p> <p>実際の展開イメージについては以下のとおり</p>		

	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>A) <u>ボトムアップでの展開</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>B) <u>トップダウンでの展開</u></p> </div> </div>
<p>期待される効果</p>	<p>(効果について数量等を具体的に)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新しい案件や、部署横断の案件などに早く対応できる。政策監や幹部は、政治判断も含め最終判断に専念できる。 ② データや現状により地域の分析力が上がり、職員の資質向上になる。 ③ チームによるディスカッションとプレゼンテーション能力の向上になる。 ④ 政策立案、政策決定、政策実行の3つを分業することで、役割分担がはっきりし、順序立てて行うことで、市民や議員への説明もしやすい。 <p>(考えられるデメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての業務や案件についてこの方法が適しているわけではない。 ・チームメンバーの温度差や能力により、チームとしてまとまらない可能性がある。 ・通常業務に加えた仕事になるため、チーム員には負担感がある。
<p>担当課検討結果</p>	<p>本件は、政策監の立ち位置の曖昧さに起因するものであり、その点を明確にすれば、サポートチームを創設しなくても既存のシステムで十分対応できうるものである。</p> <p>政策監とは、本市の取り巻く環境が変化する中、より機動的に対応を進める上でシンクタンクとしての政策形成、情報収集、部局間の調整などを行うとされている（H26年6月議会総務部長答弁）。そして、本市には、備前市プロジェクトチーム設置規程があり、そこに規定される総括者が本来の政策監の役割</p>

である。

つまり、政策的な案件の検討を市長から指示された場合、その検討は、必要に応じ、プロジェクトチームまたはそれに類するもので行うべきであり、その運営にあたっては、政策監を中心に必要な人選を行えば、新たにサポートチームを設けずとも十分対応可能である。そして、人選については、公募枠やリソースメンバーなど、意識が高く、スキルもある人材を加えることで、より良い結果が得られると考える。また、こうすることで、考えられるデメリットにあるサポートチーム自体の不確実性への懸念も払しょくされる。

よって、政策立案サポートチームの創設ではなく、既存のプロジェクトチームを組織し、構成員として政策立案をサポートするメンバーを公募することをおすすめする。

提案事項審査報告書
(アイデア提案用)

提案番号 No.18-03	所属	職名	氏名
------------------	----	----	----

提案件名 政策立案サポートチームの創設

問題意識	創造性	有効性	効率性	費用対効果	具体性	実現性	合計 (総合評定)
3.7点	2.8点	3.1点	2.8点	2.7点	3.2点	3.4点	21.7点

優秀賞に至らず。

【意見】

- ・既存のプロジェクトチーム設置規定での対応は、トップダウンでの政策が中心に考えられているが、提案についてはボトムアップ方式も視野に置かれている。ボトムアップ方式の仕組みについては必要と思われ、その意味で問題意識としての着眼点がよいと感じる。
- ・担当の意見にあるように、その都度メンバーを募集するで良いと思う。私の勝手な想像では、同じ人がずっとプロジェクトチームにいと、他の人との温度差が生まれそうな。公募によって自分の得意分野で活躍できる人が出てきたり！
- ・担当課検討結果のとおりです。
- ・提案内容に同意します。しかし効果が出るのに時間を要するため、まずはプロジェクトチーム制度を利用し、対応すべきと考えます。
- ・担当課検討結果に同意します。
- ・現状の政策形成に関する不十分なのではないかという問題意識は重要であると思います。
- ・しかしながら、担当課が指摘するプロジェクトチーム設置規程をみる限り、提案者の方の狙いは現状のプロジェクトチーム制度でもある程度実現可能であると考えられます。
- ・ただ、プロジェクトチームは、トップダウンによる設置を想定したものとも思えるため、ボトムアップ型の政策提案にはマッチしないこともあるのかもしれない。
- ・プロジェクトチーム制との優劣や本提案によりプロジェクトチーム制の課題が解決できる可能性など、現状の制度に加えて、本提案を採用すべき必要性について、本提案では十分に伝わらなかったため、今回は不採用とするのが相当と考えます。
- ・わざわざ創設するものではないと考える。各政策監が担当部署に声掛けをしていくべきと考える。
- ・市民の声やニーズ、問題や課題の吸い上げには適していると思いました。